

## 第5回仙北市将来ビジョン策定委員会 会議録

- 日 時 平成23年6月22日(水) 19時05分～21時05分
- 会 場 角館樺細工伝承館 研修室1
- 出席者 委員長 島澤諭 副委員長 平野英子  
委員 佐々木恵美子 佐藤慎 佐々木美智秋 佐藤雄喜 杉宮百合子 田口知明  
門脇市長 倉橋総務部長 伊藤総務部次長兼政策推進課長 富岡参事 大山課長補佐  
大澤班長 武藤主任 15人
- 欠席委員 関口久美子 藤枝優子

### 1 開会

事務局

定刻になりましたので会議を開会します。  
23年度になり、人事異動がありましたので、職員を紹介します。  
(総務部長から順に紹介)  
第4回の委員会後に大震災が発生し、2ヶ月程、会議が延期されていました。  
委員長から挨拶をお願いします。

### 2 委員長挨拶

島澤諭委員長

お忙しのところお集まりいただきありがとうございます。  
事務局からありましたように、地震の影響で延期になっておりました。地震対応については、予想通り、政府は全くあてにならないということで、自分たちのことは自分たちでやっていくんだという思いを強く感じているところです。  
従って、ここで討議いただいている将来ビジョンというのは、より一層、重要になって来ていると思っております。  
実質的な議論は本日が最後となっております。協議事項が多いですが忌憚りの無いご意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

### 3 市長あいさつ

門脇市長

おばんです。震災の後、委員長から「今こそ、将来ビジョンが必要ではないのか。策定を急ぐべきではないのか」とのご指摘をいただき、全くその通りだと思っています。  
今までの協議は、震災前の現状から発想していた部分があり、その根底に大きな変化があったことから、その議論を最初から積み上げ直さなければいけない部分もあると思います。  
ただ、自分の認識の中での将来ビジョンは「今はこういう状況だけれど、この後は、こうなっていなければいけない。仙北市は、こんな潜在能力を持っているんだ」ということで、道標というか、進むべき道に大きな時間を費やし議論してきたと思っています。  
確かに、震災の影響でマニフェストが実行不可能になった部分が幾つもの分野で発生しましたが、その検証は別の機会として、ここでは今までどおり、本来、仙北市が持っている能力をいかに高めていくことが出来るか。高めて行ったときには、こういった展望が開けるんだ。という部分の議論を本日もお願いしたいと思います。  
実質的な議論は今日が最後ですが、皆さんで時間を共有出来ればと思っております。  
併せて、震災対策では沢山の方々のお世話になっています。仙北市は財政基盤が弱いのので、出来ることと出来ないことがあります。その中でも市が出来なかった部分について、市民の方々から色々な方法でご支援いただき感謝を申し上げたいと思います。そういったことの在り方

がまちづくりの基本だったりするのかなと思ってまして、市民力をいかに高めていくかというビジョンがあればいいなと思っています。よろしくお願いします。

#### 4 協議 案件 生活環境、市民分権、行財政改革、まちづくりについて

事務局 協議を始める前に資料の確認をします。  
資料1は、市民意識調査の結果です。前回、速報値として提出させていただきましたが、今回は精査したものです。  
資料2は、同市民意識調査の中に生活環境の項目がありましたので、それについて地区別に集計したものです。  
資料3は、市民分権について、協働によるまちづくり基本条例(案)を準備しました。これについては、明日から9箇所で開催する予定です。  
資料4は、行政改革に関する資料で、24日に開かれる会議で討議される資料(案)です。  
資料5は「統計でみる市区町村のすがた」という、総務省の統計資料です。生活環境などに関係がある部分を抜粋しています。  
最後に、まちづくりに関して、市の都市計画マスタープランを準備しました。

島澤諭委員長 協議の内容ですが、生活環境、市民分権、行財政改革、まちづくりということで、資料の説明をお願いします。

事務局 生活環境について、資料2 市民意識調査の中の生活環境に関する項目を抜粋しました。資料1に記されている生活環境に関する項目を、詳細に集計しています。  
資料3 協働によるまちづくり基本条例(案)は、これから市内9箇所で開催し、制定に向けて取り組んでいく市民分権に関する条例(案)です。  
資料4は、行財政改革大綱の素案です。現在、平成18年から22年に行われた改革大綱の見直しを行っているところです。  
資料5は総務省の統計で、労働、居住、福祉・社会保障、安全、自然環境についての県内市町村別の数値です。  
まちづくりについて、平成21年3月に策定された都市計画マスタープランの概要版の資料です。これが、一番新しい都市計画マスタープランです。

島澤諭委員長 本日の次第には、市民意識調査と記されていますがこれについてはいかがですか。

事務局 前回、提出された物が速報値であったことから、作り直した物を準備しました。これについて、討議するというものではありません。

島澤諭委員長 資料の説明をいただきました。  
協議事項が色々と並んでいますが、現市長が目指す方向としては、9つの地域運営体がそれぞれの地域にあって、かなりの程度の責任を持って、地域のことは地域でやっていくんだと。その為には財政的な援助を行うし、行政サポートも行うと。そうした中で、その地域に合った生活環境が創られていく。  
これは、市民分権、まちづくり、行財政改革が密接に絡み合っています。  
勿論、ハードに関しては市が行うことと思いますが、ここで議論していくのは、地域を分けて運営していくことが望ましいのかということ。それが望ましいとした場合、最終的にどういうまちづくりをしていくのが良いのかということを議論したいと思います。  
ここで、本日の進め方を確認したいのですが、本日は21時までとなっています。議論は今回が最後で、次回は、ビジョンの素案をつくる作業があります。作り方についてお諮りしたいと思っているので、本日の議論は20:45頃までにしたいと思います。  
都市計画マスタープランはハードについてだと思いますが、都市計画としての、市を大きく2つに分けるというのは、9つの運営体とは別のこととしてもよろしいのでしょうか。

事務局	はい。都市計画法に基づいた概念の場合、都市計画区域が2つ存在するということです。
門脇市長	都市計画は21年3月に策定されていて、策定時に地域運営体の概念はありません。また、都市計画というのは、変更しない限り現行のままです。
島澤諭委員長	都市計画は、都市計画として続けていくということですか。それは、運営体の理念などとは違うものという考え方でよろしいのでしょうか。
門脇市長	委員長がお話のとおりで、都市計画マスタープランは主にハード部分ということになっています。地域運営体の9つの地域はソフト事業で、生活環境を向上していくという考え方ですので、関連が無い訳ではないのですが、直接的に関連づけることでもないです。
島澤諭委員長	ソフトを議論していくということでもよろしいですね。ハードは大体が決まっているのでしょうか。
門脇市長	ハードについては、大まかにスケジュールが決まっているということでもよろしいかと思います。将来ビジョンを語る上で避けて通れないと思うことは、行政の窓口とか役割がどういうふう地域に存在しているのかということだったり、他には、例えば学校、庁舎、病院などの配置がどうかということなどだと思います。3月には市庁舎を検討する市民会議から答申をいただいていた、それには、今のようなバラバラの庁舎では無く、一体型が望ましいということが記されていて、また、場所については神代地域の46号線バイパス付近が望ましいというような答申をいただいています。
島澤諭委員長	それを前提とする必要はありますか。
門脇市長	庁舎の建設については、議会の意見が重要ですし、市民会議では財政的な側面を考慮せずに議論していますので、ここでは前提とする必要は無いと考えます。
島澤諭委員長	まちづくりを考える場合、市役所がどこにあるかは考慮が必要ではないでしょうか。
門脇市長	「どこ」となると、かなり確信的な話しになります。市民会議の答申としては、交通の便が良くて、人口重心を考慮してという結果です。
佐藤慎委員	前回の会議を欠席したので、話しが重複するかもしれませんが、市民アンケートについて委員長からプロのご意見を伺いたいと思います。結果を見ると、回答者の年齢層がすごく偏っているように感じました。将来ビジョンを語る上で重要視すべき物ということで、アンケートが行われた部分もあるかと思いますが、若い人の回答が少ないこの結果を判断材料とすることは問題が無いものなんでしょうか。
島澤諭委員長	こういったアンケートは、そもそも暇な人たちが答えがちです。時間に余裕があるのは高齢者なので、回答が高齢者に偏るというのは避けられないです。もう一つは、仙北市の年齢構成が関係していると思います。年齢別に人口数を並べたとすると、この回答率に近い状態になるのではないのでしょうか。この会議だけの活用を考えると、アンケートの依頼者を若年層に絞ったほうが良いのですが、このアンケートの制度設計上の制約などもあったことと思います。年齢層別の集計などがあると、より使いやすいのかもしれませんが。
門脇市長	アンケートの依頼者は無作為抽出ですよ。それと、依頼者の家族が、依頼者の代わりに回答しても良いんですよ。そうすると、先程、委員長が話されたような状態は考えられます。

事務局 はい。18歳以上の市民を対象に行いました。若年層人口が少ないことが、このような回答率に関係していると思います。

島澤諭委員長 例えば、「住み続けたい」という回答が多い設問がありますが、若い人の回答では無い可能性が高いということだと思います。

佐藤慎委員 このアンケートの結果を、この会議でどのように活用するのか、ある程度の位置づけが必要ではないかと感じます。

島澤諭委員長 これはこれとして、無理に関連づけられないほうが良いと思います。この結果は、どのように取り扱われているのですか。

事務局 結果の概要を広報に掲載しています。

平野英子副委員長 「市役所の情報が市民に詳しく伝わっていると思いますか？」という設問で、「いいえ」という回答が非常に多いのですが、そうだとすると、例えば、資料3「まちづくり基本条例(案)」に関することは、知らない人が多いということになるのでしょうか。

門脇市長 多分、そうだと思います。

平野英子副委員長 例えば、市民の8割以上が理解するには、どうしたら良いのでしょうか。

門脇市長 この度の「協働によるまちづくり基本条例」の制定に関しては、地域運営体の在り方や、行政がどのような支援をしていくかということの担保の部分の約束なのですが、これを9月議会あたりで提案したいと思っています。この条例の基本的な考え方などについて、明日から各地区で説明会を行う予定です。説明会の開催については、広報やHPで紹介していますが、どれだけの方が広報を読まれているのか疑問なところなんです。なので、先程の「情報がちゃんと伝わっていない」ということは正解だと思います。行政は今まで、情報を伝えるところがサービスだという認識は薄かったと思います。そうでは無く、行政の今を伝える方法を探り、改善したいと考えています。しかし、より良い手法が見出せていません。例えば、6月1日から運用を開始した「安全安心メール」について、皆さんがご存知かと言うと、そうでもないのかなと思います。

佐藤慎委員 緊急地震速報とは違うメールなどですね。

門脇市長 子育て情報だったり、生活安全情報だったりなど4項目程度で提供しています。

佐藤雄喜委員 登録が必要なんですか。勝手に送られてくるメールがありますよね。

門脇市長 それはエリアメールです。エリアメールについては、NTTドコモさんに昨年11月に登録させていただきました。これは、市民かどうかでは無く、仙北市内にいるドコモの携帯を持っている方だけが受信出来るものです。この方法だけだと、携帯電話の会社が違くと受信出来ないので、市独自の安全安心メールの配信を開始しました。これは、QRコードを読み取り空メールを送るだけで簡単に登録出来ます。このようなことを始めているのですが、ご存じない方が多いと思います。仙北市の情報発信能力が非常に弱いということは事実で認めざるを得ないことですが、その

事に慣れすぎている方が、情報の必要性というか、どうせ行政は何もしていない、色んなことをやっているとは思っていないんだと思います。

佐藤慎委員　この質問の回答率は、なるべくしてなったような気がするのですが、だからと言って、一概に市役所だけが悪いということでは無いと思います。

門脇市長　例えば、佐藤委員が何らかの問題に直面した時、そのことについて「行政はこんな取り組みをしています」というような会話ができれば良いのですが、殆どの方は、行政は何もしていないと思っているので、この状況を何とかしたいと思っています。

佐藤雄喜委員　例えば、窓口の対応などに問題はありますか。お昼の窓口は時間が長くなる話しなどを聞くことがあります。

門脇市長　担当職員の昼食時間を調整していますが、需要と供給のバランスでご迷惑をおかけしているタイミングがあると思います。

佐藤雄喜委員　それから、担当が違くと分からないということが多いです。

門脇市長　それは、全くそのとおりです。言い訳になってしまいますが、専門性が高い分野も多いので、一人の人間で全てを賄うことが難しく、なかなか改善の糸口が見えて来ない状況です。

島澤諭委員長　秋田市だった気がします。銀行のような時間が記された順番札で窓口対応しています。順番札は対応時に職員が回収し、所要時間を把握しているようです。仙北市では、このようなことが行われていますか。

門脇市長　行っていません。

佐藤慎委員　カードを使うほど待つことは殆ど無いと思います。自分はそういった経験はありません。

佐藤雄喜委員　住民票などは良いんですが、他の機関のことだと、専門の係じゃないと分からなかったりしますよね。

門脇市長　そうなんです。近くの庁舎等で全てが完結は出来ません。そういったことから、サービス向上の為に一体型庁舎が必要だと強く感じていて、先日、議会においてもこの話がありました。

まず、病院を平成26年の秋頃までに何とかしたい。病院は命に関わることなので急ぎたいとお話していましたが、地震が発生したことにより、築後50年が経過している角館庁舎は非常に不安な状況です。

また、庁舎建設の財源としてどういったものが有効かと言うと、「合併特例債」という、市町村合併した市町村が使える財源があって、これが一番優良な資金なんです。これは平成27年の発行まで。言い換えると、平成27年までに借りる手続きをしなければ使えなくなってしまいます。

そうすると、仮に、平成26年の秋に病院が建設されたとしても、それ以前から庁舎に関する段取りをしていかないと、間に合わなくなってしまいます。

今までは、病院を優先させてもらおうと話をしていましたが、病院と庁舎の建設を重複して進めて行く可能性はあります。

こういった話は、自分たちの生活にとって、とても深い話だと思うのですが、忙しい毎日の生活の中で忘れてしまいます。自分たちは、こういったことを、どのようにして市民の方々に届けるか日々模索していますが、なかなか有効な手だてが無くて、そういったことから、携帯電話へのメール配信などを活用している状況です。他には、光ファイバーの埋設を急いで、市独自のニュースを流すなどの可能性もあります。

これは、行財政改革であり、生活環境の向上に関する部分でもあります。

田口知明委員

将来ビジョンを策定するということは、在るべき仙北市、目指すべき仙北市を掲げて、それを見た市民が希望や夢を持って、今は大変だけどみんなで頑張っていこうというものだと思います。

今までの話し合いは現状の認識だと思います。これを踏まえた上で「どういう市が良いのか」を描いていく必要があると思います。

手元にある都市計画マスタープランですが、私は委員をしていました。こういったプランがあることを殆どの市民が知らないと思います。行政では活用されているでしょうが、市民レベルでは全くと言っていいほど分かりません。

この「将来ビジョン策定委員会」についても、私たちが議論したという事実はそれとして、結果として、これが分厚い冊子で、長い文章で表現されても、「絵に描いた餅」になってしまいそうな懸念があります。

出来ることなら、市民が馴染めるようなビジョンを創りたいと思います。

門脇市長

他市町村の色々な計画などには、子どもたちが描いた絵が載せられていたりして、有料で販売したりもします。それはつまり、それだけの価値を持っていると考えることが出来ます。

将来ビジョンについて、個人的にはボリュームは無いほうが良いと思っております。出来るなら、皆さんの分野について「この分野はこう在りたい」というような、分野ごとのシンプルなイメージ図だとか、馴染みやすい文章だったりがあって、そこに向かって行こう！と思えるようなもの。

将来ビジョンの本質は、今は苦しいけど、みんなが同じ方向を向いて、来るべき明るい未来を信じて、一緒に頑張っていこうというものだと思います。

こういったものだとするなら、一家に一部とか配布出来たら良いと思います。

田口知明委員

一枚の絵で表現出来たら素晴らしいと思います。

佐藤慎委員

広くて長い目線でという話だったと思います。

門脇市長

その通りです。なので、財源的な部分などは、そんなに気にしないで、自分たちの能力はここまで高めることが出来るんだと。それによって、こういった生活が実現出来るんだと、そういったことが表現出来ることが一番なように思います。

佐藤慎委員

都市計画マスタープランは、平成21年策定となっていますが、最近、新しいものが出来たりしていますか。市HPに載っていたと思います。

事務局

道路の変更や廃止についてです。

佐藤慎委員

気になっていることがあるのですが、「都市計画」と「まちづくり」という言葉についてです。

それぞれの言葉が表すことが、何となくイメージは出来るのですが、言葉の定義などはあるのでしょうか。

門脇市長

都市計画法上の言葉だったりするのですが、「都市計画」というとハード部分で、「まちづくり」というとソフト部分というイメージが強いです。

佐々木美智秋委員

「まちづくり」と言うと、例えば人づくりだったりとかソフト部分のようなイメージがします。

この会議で、これまで話し合われたことは、「より良くなる為にはどうするか」ということだと感じています。

例えば、地域運営体についても各地で活動が進んでいると感じています。神代地区についても、似合っているかは別としても、看板が立てられたりしています。一つひとつがチョットずつ動き始めていて、委員の方々も積極的に活動しているようです。

将来ビジョン策定委員会は、そういった現実の活動の少し先を見る必要があると思います。

門脇市長 運営体について、一生懸命に関わっている人と、そうでない人がいます。  
先日、とてもショックだったことがあり、「何故、市長はあの人を会長に指名したの？」と聞かれました。運営体の会長は、市の委嘱状のような物で携わる職務だと思っている人がいるようです。それくらい、熟度が低いのは事実です。

佐々木美智秋委員 関心の大小は人それぞれの部分がありますが、神代地区だと広報を作って活動を紹介しています。

門脇市長 広報活動はとても効果的な活動です。神代や田沢が積極的な広報活動をしています。広報活動が盛んな地域は認知度が高いです。  
サポート職員間でも広報活動の必要性が重要視されています。

平野英子副委員長 市の広報なのか、農協なのか、県なのか、良く分からないままに届けられている感じがあります。この会に出席したことがきっかけで以前より見るようになりました。色々載っていますが、興味が無いページは全く見なかったりなので、もう少し何とかならないのでしょうか。

佐藤慎委員 仕方が無い部分があるのではないのでしょうか。市サイドからすると、読む率を上げるようにするのは当然のことですが、だからといって、例えば新聞の折り込みチラシを全ての新聞購読者が見るかといったらそうでは無いし、新聞の記事にしても興味があるところしか見ないと思います。それを全市民に求めることは無理があると思います。

平野英子副委員長 先程、都市計画マスタープランの話をしたとき、例えば「絵が良い」などの話がありました。ある程度の割合の方々の前向きになれるような表現が必要な訳ですよ。

門脇市長 出来るなら、理想の将来に立つ為には、今はこれが必要なんだ、といったことがあれば、励みになるかなと感じたりしています。

島澤諭委員長 例えば、市民と行政がどんどん情報を共有していくことも、将来の在るべき姿の一つだと思います。今の現状があって、「目指すべきところに到達するにはどうしたら良いのか」について、ここで議論して、それを表現出来れば良いのかなと思います。  
意識を持っている人は、市のHPを見たりとかすると思うのですが、そうでは無い人たちをどうするかだと思います。

佐藤慎委員 そういった人たちに意識を持たせるにはどうするべきかと言うことだと思います。アンケートの結果を見ても、「どちらとも言えない」の回答が非常に多いです。これは、「どちらとも言えない」ではなくて、「関心が無い」ことなのかなと思います。

佐々木恵美子委員 私は、このアンケートに回答しましたが、「どちらとも言えない」という回答が多かったです。何故かと言うと、良く分からない分野が多いからです。「良く分からない」という回答の設定が無いので、「どちらとも言えない」が多くなってしまいます。

佐藤慎委員 そうですね。例えば「市営住宅の現在」などといった設問がありますが、自分とか親族とかが入居でもしていなければ、関心を持つようにも持ちようが無い項目だったりするかと思います。そうなる、「どちらとも言えない」を選ぶしかないことになりますね。

田口知明委員 これは震災前のアンケートですが、震災後の今は、意識がかなり変わっていると思います。

門脇市長 考え方が変わるし、人生そのものが変わってしまった方々が多いと思います。

田口知明委員	連日のように、テレビなどで被災地の復興の様子が放送されていますが、現地は絶望的だと思います。でも、みんなが必死になって復興に向けて頑張っている。それを見ていると、例えば市の観光についてはとても厳しい状況だったりする訳ですが、それでも、被災地を思うと、自分たちのところは何か出来るんじゃないかと。何とかしなければいけないのではないのかと思います。自分たちは、前向きにならなければいけないんだと思います。
佐々木美智秋委員	被災地と一緒にへこんでいる場合じゃないんだ、という話はときどき耳にします。今年の水芭蕉祭りでも、被災県から気分転換に来たと言う人が少なくなかったです。
門脇市長	随分多かったようですね。今年は、例年より開花が遅れたので、連休後半まで花を楽しむことが出来ました。
平野英子副委員長	今年は、土手の桜がイマイチだったと聞きます。
佐藤慎委員	鶯(うそ)の被害が多かったと聞きます。
平野英子副委員長	そういったことへの、市からの費用的な対策などは無いのでしょうか。
門脇市長	猟友会などへの補助金の交付はしています。
杉宮百合子委員	市の予算の多くが除雪に費やされ、鶯(うそ)対策が出来なかった、なんて噂を聞きます。
門脇市長	例年以上に除雪経費が多かったとしても他の予算を奪ったりするものではありません。今のような予算の配分にしても、みんなで話をすると理解してもらえと思うのですが、こういった少しずつの誤解が沢山積み重なっているんだと思います。 そういうことから、出来るだけ色々な情報を提供したいということで、それにはハードの整備も必要ですが、出来れば、テレビの地デジ化に併せて、リモコンのボタン操作一つでお年寄りでも市独自のニュースが見れるといったことが出来たら良いなと思います。
佐々木美智秋委員	息子が毎朝、地デジでピンポイントの天気予報などを見ています。あの画面には、天気予報以外の情報も流れていたりするように思います。
門脇市長	それには行政情報は流れていません。確認したのですが、現状では流せないそうです。緊急の時などに活用出来れば良いと思っています。
平野英子副委員長	民放と同じように、市がテレビ局を持つようなことはどうなのでしょう。
門脇市長	合併前の大内町などでは、ケーブルテレビを放送していました。しかし、状況を聞くと、殆ど見られていないそうです。そういった環境を整えていくことも行政の業務ではありますが、最終的に見てもらえないと、有っても無くてもということになってしまいます。 使い勝手が悪かったり、番組として面白くなかったりということが原因の一つとしてあると思うので、広報同様に見てもらえるような工夫をしていく必要があると思います。
佐藤慎委員	先程と同様の話の内容になって行くのですが、必要性を感じていないのではないのでしょうか。
門脇市長	そういう部分はあると思います。ただ、仮に自己満足であったとしても、行政としては情報を提

供しているんだという自信を持ちたいという気持ちがあります。

佐藤慎委員

個人的には、仙北市は良くやってくれているほうだと思っています。

門脇市長

佐藤さんのように、HPを見たりだとか色々な手段を持っている方には、それなりに思っていただけののかもしれませんが。

島澤諭委員長

難しいことですが、行政情報を我が身のように考えてくれる方々をどうやったら増やせるかということだと思います。

口で言うほどたやすいことでは無いと思います。

佐々木恵美子  
委員

一番最初にこの会に来た時に、市民の所得を上げることについての話があったと記憶しています。所得に限らず具体的な目標があると、そうする為には何をすべきかという具体的な取り組みが見えてくると思います。

門脇市長

経済学が専門である委員長に伺いたいのですが、所得を例にした場合、必要な物を全て地元で揃えるという究極的な地産地消が可能な場合、これは経済として発展しますか。

島澤諭委員長

お金が同じところを回るだけなので、地産地消だけでは残念ながら経済の発展はありません。回るお金を増やすことが大事なので、どこかの段階で外貨を獲得する必要があります。

よく言われることですが、外貨を稼げる産業が核にあって、その地域で働く人たちが地域でお金を使うというのが発展形態です。

現在の仙北市は、外貨を稼げる産業が観光であり農業なんだと思います。それを、強くして行って地域に落ちるお金を増やしていくのが一番良いスタイルになると思います。

全てを地域で賄うことは最良ではありません。全てが地域内で完結してしまうと発展が無くなってしまいます。色々な市町村などが、お互いの得意な部分を取り引きしあうことなどによって発展が生まれます。

この会の、第1回の内容になりますが、核となる産業をいかに強くしていくかということです。

この度の原発に関連してですが、自然エネルギーはどんなものがありますか。また、市として具体的に注力しようとしている分野はありますか。

門脇市長

木質バイオマス発電を行っています。他にも色々なことを試したいと思っています。

現在、電気自動車の実証実験を行っていて、電気自動車の様々なパーツを市内で生産したりとか、電力を自然エネルギーで生み出したりとかといったことが考えられます。

具体的に、どの分野でということになると、今のところは木質バイオマスです。仙北市は森林の保有面積が大きいです。

平野英子  
副委員長

仙北市はこんなに広い面積を有していますが、そういったことで何かないのでしょうか。

門脇市長

地熱や温泉熱、他には小水力です。

小水力については、使い方に応じて簡単な仕組みで出来る物もあるようです。水利権などが関係してくるので、土地改良区などで実験しているようです。

佐藤慎委員

余談ですが、先日、富山のチューリップ施設で水車を見学して来ました。そこは観光施設として、昔の物を復元させたとのことですが、先人の知恵に触れることができ勉強になりました。

観光施設としては勿論ですが、農業においても、ちょっとした動力源になりそうだなという感じがしました。

門脇市長

仙北市は、そばの生産が盛んなところですが、数年前、そばを打つ機械を水車にしようという

話がありました。水車を動力源にすると、不必要な熱を発しないので、そばを打つには具合が良いということでした。

- 佐藤慎委員 自分が見学した施設でも、米の精米に水車を使っていました。
- 島澤諭委員長 将来ビジョンに関して、例えば、20年後には市内の電力は全て自然エネルギーで賄うといったビジョンもあるかと思います。
- 田口知明委員 それが実現すると、とても注目を浴びることが出来そうですね。
- 平野英子副委員長 市内の電気は全てが自前で、市民は電気代を払う必要が無くなったりしたらとても魅力的だと思います。
- 門脇市長 電気の自給について、どこかの市町村が地区を限定して、畜産業から発生するメタンガスを利用した実験が行われていたような気がします。  
こういった取り組みはとてもおもしろいと思います。出来れば、仙北市内は電気自動車限定にしていくことなども必要かもしれません。  
大型バスなども電気にして、例えば、桜にやさしい排気ガスが出ないバスなど、とても良い取り組みではないかと思います。
- 佐藤慎委員 化石燃料より優れていることは理解出来ますが、時代の流れとしては、電気は使わないにこしたことは無いと思います。  
電気の生産源が何であったとしても、使う量を減らしていくことが必要だと思います。
- 門脇市長 とても大切なことだと思います。そもそも、右肩上がりの経済成長を続けて来たことを忘れる必要があって、現在は、拡大傾向では無く縮小傾向なんだと。今、何を我慢出来るかとなった時、仮にそれがエネルギーだった場合、例えば夜は21時で消灯するとか、そういったことを行う必要が出てくるんだと思います。
- 田口知明委員 昔の生活ですよ。元々、電気の無い生活をおくって来ました。
- 佐藤慎委員 電気であれ化石燃料であれ、それらの使用量を減らすのに有効なのは、自家用車の所有率を下げて、公共交通機関の利用率を上げていくことが考えられます。トータルで考えると、確実にエネルギーの使用料を抑制することが出来ると思います。
- 門脇市長 現在の生活環境の中で、忘れられていたのではないかとということがあって、それは、公共交通の在り方です。
- 平野英子副委員長 「自家用車を持たなくても、クリーンエネルギーの公共交通で市内なら何処にでも行けます」というのを目指すことも出来ますね。
- 島澤諭委員長 自家用車を減らして公共交通を使うということは、まちづくりがしっかりしている必要があるので、絵に描きやすいですね。
- 門脇市長 そうすると、道路網などの要素に気が付き始めます。例えば、この集落とあっちの集落を結ぶにはどうしたら良いかとか。  
自転車でも良いですよ。雪が無い季節については自転車の利用を促進すると、年間の約半分は自転車を使うことも可能です。
- 佐藤慎委員 都内などでは、びっくりするほど自転車の数が増えていますね。

門脇市長	小学校は今、自転車通学は出来なかったでしょうか。
事務局	学校によって対応が違います。
杉宮百合子 委員	昔は徒歩通学や自転車通学が当たり前だったと思いますが、今は、不審者の問題などもあって、保護者が自家用車で送り迎えをすることが増えていると思います。
門脇市長	そのことが、段々常態化して来たんだと思います。
平野英子 副委員長	市内なら公共交通で何処にでも行けるのが理想ですね。
佐藤雄喜委員	仙北市で電気自動車を持っていますか。
門脇市長	現在、使用しているのは借りている車です。航続可能距離は、まだまだ改善の必要がありそうです。
平野英子 副委員長	色んな所に充電器とか蓄電施設とかあったら良いですね。 将来ビジョンにするならば、それらの電気は全て市内のクリーンエネルギーで作っているとか。
佐々木美智秋 委員	どこの県だったか忘れてましたが、ガソリンスタンドにバイオエタノール施設を併設して実験しているところがあったと思います。
島澤諭委員長	バイオエタノールに関しては、一時期のガソリン価格の高騰が去った後は、話題になっていません。エタノール生成に必要なコストが高いので、ガソリンの価格がいくら落ちついた現在では、機運が高まっていないようです。
佐藤雄喜委員	家庭から出される、天ぷら油などの廃油を利用したディーゼル車があったと思います。
門脇市長	役所でも使っていました。以前、食堂さんなどをお願いして廃油を集めた経緯がありますが、ブームで終わってしまっています。
佐々木恵美子 委員	市民にすると、どのように使われているかが分かれば、捨てるよりなと思うかもしれません。
門脇市長	そういった気持ちになってもらえるような取り組みが必要なのかもしれません。 始まりが分かっても、終わりが分からないことが多いのかもしれません。
田口知明委員	結果が分かると、それが励みになることもあると思います。
門脇市長	沢山のことが話題に挙がり、それに伴い終わりの時間が迫って来ました。
島澤諭委員長	まとめの回に相応しい感じがします。
田口知明委員	土壇場になりましたが、色々と見えてきた感じがします。
島澤諭委員長	大体、出揃った感じがします。 どんな物にするかは別にしても、今後は将来ビジョンを作る作業になります。 皆さんからは、これまでの議論で感じたことを表現して欲しいと思います。例えば、「私が思い

描く将来の仙北市はこんな感じですか、「こうなって欲しい」とか、「自分の子どもが、今の自分の年齢になる頃には、こんな仙北市だったら良いな」とかです。量は色々でしょうが、皆さんがお持ちだと思いますのでよろしくをお願いします。

次回までに、骨格になるような部分を創ってきて皆さんに提示しますので、意見をいただければと思います。

門脇市長 今までの議論に出なかった部分についても、盛り込める可能性がありますよね。

島澤諭委員長 勿論です。私が作るのは骨格だけです。みんなの力で良いものを作りたいと思います。

門脇市長 これは行政報告的な物になる可能性が高いのでしょうか。  
先程、田口委員からお話しがあったように、例えば、小学生などが描いた絵などがあつたら、見てもらいやすいかなと感じたりしました。  
将来のことを記すので、例えば、学生が見易いようなものにする方法などもあると思います。

田口知明委員 学生に描いて欲しいものが提示出来れば、描いてもらえると思います。  
何を提示出来るかが、これからの作業だと思います。

佐藤慎委員 ビジョンとしてまとめられた物を、今後、どのように活用していくかによって作り方が違って来ると思います。

田口知明委員 絵に描いた餅にならない為には、打ち出した将来ビジョンを具現化していく委員会などが必要になってくると思います。

佐藤慎委員 そのような発展をしていく場合、不安に感じていることがあって、市民会議での決定内容がどこまで効力があるのかということです。

門脇市長 「市民会議とは何か」ということが議会でも話題になります。市民会議で決まったことの全てを予算要求して来るのかと言われてたりします。それは、そういう場合もあるし、そうでは無い場合もあります。少なくとも議会の方々には、こういった議論が行われたということで、欠落している視点や、重複している視点などを使い切りたいというお願いをしています。

この度の庁舎の件に関しては、議会の方々には全文を報告しています。議会の方々にとっては、判断の材料をいただいたのだなということになっています。

今までのように、何も無いところからということではなく、色々な積み上げがあつてのことで、有効に活用されることは間違いないです。必ずしや、何らかの科学反応が起きると思います。

だからと言って、全てが現実のものにはなれないことも、また事実です。

田口知明委員 イメージですが、仙北市を会社とした場合、我々平社員が現場で会社の将来像を描くような状況だと思います。これを、これから取締役会に上程する行程になるのかなと。

取締役会では、きちんとした決裁をしてもらって、明確な将来ビジョンを打ち出していく必要があると思います。

門脇市長 全部が採用されることは無理だとしても、例えば、高校再編の市民会議では、提案の殆どが採用されて、県の第6次高校再編計画が出来ているという状況だったりするので、決して無駄では無いと思います。

田口知明委員 本当の意味での、市の将来ビジョンを明確にしてもらいたいと思います。「仙北市はこれを目指すんだ」というものです。それは、議員さんであれ市民であれ、みんなが目指すものを作り上げないと実現が難しいと思います。それを、みんなが共有出来るならものすごいパワーになると思います。

- 門脇市長 そのとおりです。ここで行われた議論が完璧ではなくて欠落している視点もあると思います。「それよりだったらこっちが良くないか」というようなこともあると思います。そういう連鎖が行われていって、輪が広まって、完成に近づいていくものだと思います。
- 田口知明委員 そのとおりだと思います。
- 門脇市長 なので、この会は、完成形に向けた一つのパーツをきちんと提示するということだと思います。
- 島澤諭委員長 もしかしたら、叩き台というイメージでも良いのかもしれない。
- 門脇市長 そうだと思います。だからこそ、インパクトが必要になってくると感じています。これまで数回にわたり、各分野毎の議論をして来ましたが、報告書も分野毎になりますか。全てを網羅することは、難しいことと思います。
- 佐藤慎委員 そう思います。分野毎に突き詰めていくと、結局のところ、市長のマニフェストになるのではないのでしょうか。  
第1回目の時も話しましたが、市長はマニフェストを掲げて当選したのですから、市民はそう思っているという理屈になって行くのかなと感じます。  
ただし、このビジョンが、マニフェストの先を見据えたものというのであれば、違ってきます。
- 門脇市長 マニフェストは、あくまでも4年間のプランであって、ビジョンは、その先のことと捉えています。
- 田口知明委員 短期・中期・長期のようなイメージを持てそうです。
- 佐藤慎委員 抽象的な表現が多くなりそうですね。
- 佐々木美智秋委員 第1回目のとき、「抽象的な表現になりそうだね」とみんなで話し合った記憶があります。抽象的な中でも、会議の回数を重ねる毎に、分野毎においては具体的なことが見えているような気がします。  
これから、どの方向に向けて行くかが重要になってくるんだと思います。
- 門脇市長 過去の色々な会議は、先程のお話しであったように雛形が出来上がっていて、追認委員会のような会が殆どだったと思いますが、この「将来ビジョン策定委員会」はゼロからのスタートであり、この手法でどれだけものを作り上げることが出来るのか、どこまで市政に反映出来るのか、私自身も不安一杯です。  
ですが、今までの在り方では無いということと、将来、このような会議が当たり前になる必要性を感じています。
- 5 その他 (次回の内容や日程について確認)
- 6 閉会 これで第4回の将来ビジョン策定委員会を閉会します。ありがとうございました。